



休んでいる時間はないー世界成長を強固なものにし、包摂的な経済を構築する

[クリスティーヌ・ラガルド](#)

2017年7月5日



G20 ハンブルクサミット開催 世界経済回復の強化策を協議 (写真はドイツ ハンブルク港: Markus Lange/robertharding/Newscom)

60年近く前に、ほぼ無名だったビートルズというロック・バンドがハンブルグに降り立ち、そこで髪型をビートルズ・カットにし、初めてレコーディングを行い、独自の音楽世界を創り出しました。

この素晴らしい4人組の成功話をヒントに、今週主要20カ国・地域(G-20)首脳会議(サミット)のために集まった世界のリーダー達は、ハンブルクの地にて時間を最大限に活用し、世界の成長を促進するための堅実な対策を携えて各自の国に帰ることになるでしょう。

順調な回復

今回のサミットは世界経済に関し楽観的な見方が広がる中で開催されます。こうした明るい雰囲気背景には過去1年間にわたる世界経済の回復があり、不安定な成長と下方修正がたびたび暗雲をもたらしていた従前のG-20会合時から、喜ばしい変化を遂げたことを表しています。

しかしながら、それは慎重な楽観でなければなりません。何故ならば、回復を強固なものにし、より包摂的な経済を構築するために、政策努力が依然必要だからです。

では、現在の成長モメンタムの背景は何でしょうか？

足元の製造業と投資活動の回復は、IMFが [4月に行った予測](#)の通りに成長基調の継続を示しています。IMFの最新の成長予測は7月下旬に発表されますが、今年と来年の世界の成長率は共に3.5%程度になると予想しています。

但し、直近のG-20向けサーベイランス(政策監視)ノートの通り、地域別の成長予測は変化しています。

米国は景気拡大が9年目に突入し、循環的失業率がほとんどゼロの状況にあります。2017年初頭のソフトパッチ(一時的な景気停滞局面)と政策面の不確実性を理由に、IMFは米国の経済見通しを調整しました。

ユーロ圏では金融刺激策と内需の盛り上がりに伴ってけん引され、予測値を上回っており、新興国においては、中国の堅調な成長とロシア・ブラジルの安定化により、予測値を引き上げました。

確かに世界経済にはモメンタムがあります。ただ一方では、各国が目標としている高い成長率達成を脅かす新しいリスクと古いリスクが存在しており、悠長に構えてはいられません。

地平線に見える雲

リスクは、一地域または一つのタイプの経済に限定されているものではなく、時には回復を推進している原動力が抱えるマイナスの側面を反映しています。

差し迫った懸念事項は金融面の脆弱性です。長い間の低金利や容易な信用へのアクセスといった好条件の環境により、多くの新興国企業のレバレッジが高くなりすぎており、また欧州では金融危機で傷んだ銀行のバランスシートの修復が依然必要です。中国では、信用の急速な伸びと支出増加に支えられた予想を上回る景気拡大が続いており、公的・民間債務とも将来的に持続不能な水準に達する恐れがあります。

放置すれば、これらの懸念材料が突然の財政難をもたらす可能性があり、そのような事態に陥った場合は、世界経済全体が解決により時間を要する問題に悪戦苦闘し続けることになります。

過度の経済的不平等、生産性の低い伸び、人口の高齢化、ジェンダーギャップについて考えてみてください。 [我々のリサーチの通り](#)、これらの問題は潜在成長率に上限をもたらす、所得や生活の水準を高めることを困難にしています。

先進国では成長が加速 回復にはモメンタム、ただし依然リスクは残る

(G20 諸国の実質GDP成長率、半期毎、年率換算)



点線は予測値
出所：IMF、世界経済見通し (WEO)



では、G-20 はどう対応すればよいのでしょうか。

行動を起こす

最初に行うこととして最適なのは、現在の経済モメンタムを維持することです。金融政策と財政政策は、必要かつ実現可能な分野で需要を支えるために活用することができます。

例えば、日本では実際の産出量が潜在産出量を下回った状況が続いていますが、財政・金融支援策は良好な世界経済情勢と相まって、最近の特に高い成長率に寄与しています。

しかし、これらの措置の効果は限られています。各国は、リスク対策を行い、成長を加速させ、国際協力を活用する方法を模索する必要があります。いかなる国も一国だけで生きていくことはできません。どの国が採用するどのような政策でも、G20 諸国との協調があることにより、その政策は他国に理解され、より長期間持続させることができます。

我々にとっての優先事項の主なものは以下の通りです。

- **生産性の伸びを再活性化** 多くの国では、教育訓練へのリソース拡充と研究開発を促すインセンティブは投資を刺激し、起業家精神あふれる環境を創り出します。これは、その国の経済が早期に持続的な成長に移行するという重要な課題に対処するための助けとなるでしょう。
- **金融セクターのセーフガード** 現在のように経済が成長している時期に、資本増強やバランスシートの強化といった企業や銀行の脆弱性への対処を図ることができます。成長が持続しているということは、金融危機の直後に導入された監督や規制制度を縮小するのではなく、むしろ強化すべき時期であることも意味します。
- **過度の経常収支不均衡に対処** 経常収支の黒字国と赤字国の双方は、今こそこの問題に向き合って解決を図るべきです。今対処することで、将来的に問題が深刻化し、より大きな是正措置を採らなければならない事態に陥らないようにすることができます。今回のサミットはまた、世界の貿易システムを強化し、公平な環境での競争を促進するという、実効性の高いルールに対する IMF のコミットメントを再確認するチャンスでもあります。

何にもまして **包摂的経済を構築** することに重点を置いて取り組む必要があります。これは、技術革新と世界経済の統合により不利益を被る人々の収入増と支援強化のための構造改革が必要だということを意味します。

また、女性の地位向上とジェンダーギャップをなくすことに対する新たな努力も必要です。

G20 の先進国では、賃金労働者数の男女差は約 15 パーセントポイントです。この格差は G20 の新興国では更に大きなものになっています。

G20 諸国が 2025 年までに女性の労働参加率を 25% 増加させるという目標を達成できれば、世界全体では 1 億人の新規雇用を創出することに繋がります。

ジェンダーギャップを縮めることによって得られる大きな成果は、各国の協働により達成できることの一例にすぎません。

もう一つの例として挙げられるのは、ドイツのリーダーシップのもとで G20 が始動させた[アフリカとのコンパクト](#)です。これは民間投資の促進を主な目的としており、アフリカ大陸全体のより高い経済成長と経済の多様化のための設計図として貢献し得るものです。

また、伝染病、自然災害、飢饉など、世界的な人道危機に対処するための協調が必要であることも強調したいと思います。G20 は、ソマリア、南スーダン、イエメン、ナイジェリア北東部で飢饉に直面している何百万もの人々に対して、10 億ドル以上の援助を提供することで重要な一歩を踏み出しました。これからなるべく早い時期に、これらの壊滅的な出来事背景にある根本的な原因に対処するために、もっといろいろなことをしなければなりません。

ここに述べた課題は次の結論を浮き彫りにしています—世界経済の回復は軌道に乗っているが、このモメンタムを維持・拡大させるためには具体的な政策の実行とより強力な国際協力が必要であること。

私は、G-20 がリバプールから世界に挑戦したロック・バンドのように、G-20 がハンブルクにて進むべき軌道を見だし、世界がより高い成長を達成するだけでなく、その成長を全ての人々が分かち合うことができるような成果を上げられると信じています。



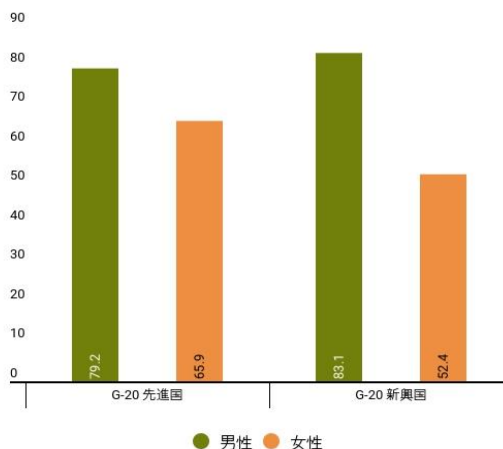
クリスティーヌ・ラガルド: 国際通貨基金専務理事。5 年間の 1 期目を終了し、2016 年 7 月に 2 期目に再任命。フランス国籍。2007 年 6 月から 2011 年 7 月まで同国の財務相。また、それ以前に 2 年間対外貿易担当相も務めた。

反トラスト法、労働法弁護士として多方面で活躍。ベーカー&マッケンジー国際法律事務所のパートナーとして活躍し、1999 年 10 月には同事務所のチェアマンに就任。2005 年 6 月にフランスで初の入閣を果たす。ラガルド氏は、パリ政治学院 (IEP) 及びパリ第 10 大学ロースクールにて学位を取得。パリ第 10 大学では 1981 年にベーカー&マッケンジー事務所以前に講義を行った実績も有する。
詳細な経歴については、[ここをクリック](#)。

縮まらないギャップ

G-20の先進国、新興国ともに、男性の賃金労働者が女性の賃金労働者を上回っている

(労働参加率、2014年、%)



出所：世界銀行(World Development Indicators)、IMFによる計算



国際通貨基金